

トップ > ニュース > 医療一般 >

人気記事ランキング

週間 月間

1 年収3千万円以上の医師のアルバイト代は? / 1,000人アンケート 医療一般

2 3回目接種3ヵ月後、日本の医療従事者での抗体価は 医療一般 日本発エビデンス

3 ファイザー製ワクチン4回目、オミクロン株への予防効果は... ジャーナル四天王

4 新型コロナ第6波の重症化率と致死率/厚生労働省 医療一般

5 無症状の濃厚接触者、「抗原検査が陰性なら出勤」は正しい? 医療一般

6 会員医師の昨年度の最多年収帯は? / 1,000人アンケート 医療一般

7 リンデロンVG教育が査定でゼロに斬られセプト

8 英語で「熱が下がる」、患者さんと話すときはコレ! 1分★医療英語

9 5~11歳への新型コロナワクチンの副反応の頻度は? / 厚生労働省 医療一般

10 コロナ禍で会員医師のバイト代は? Drs' Voice

医師閲覧ランキング

各抗うつ薬に対する患者の主観的満足度の比較

提供元: ケアネット



ツイート

いいね! 0

公開日: 2022/04/21

現在、異なる作用機序を有するさまざまな抗うつ薬が利用可能であるが、その有効性および安全性に有意な差があるかは、よくわかっていない。また、各抗うつ薬に対する主観的な経験に関するデータを組み込んだ検討は、ほとんど行われていなかった。アルゼンチン・AREA (Assistance and Research in Affective Disorders) のSebastian Camino氏らは、各抗うつ薬に対する患者の主観的満足度について、比較検討を行った。Psychological Medicine誌オンライン版2022年3月29日号の報告。



薬剤に関する患者評価のWebサイト (www.askapatient.com) から、さまざまな抗うつ薬についての投稿を定性的および定量的に分析した。1,000件の投稿をランダムサンプルとして確認した。

主な結果は以下のとおり。

- ・包含基準および除外基準を適用し、450件の投稿が分析サンプルに含まれた。
- ・450件には、最も使用されている抗うつ薬 (セルトラリン、citalopram、パロキセチン、エスタロプラム、fluoxetine、ベンラファキシン、デュロキセチン、ミルタザピン、bupropion) それぞれの投稿50件が含まれた。
- ・全体的な満足度が高かった薬剤は、bupropion、citalopram、ベンラファキシンであった。
- ・セルトラリン、パロキセチン、fluoxetineでは感情鈍麻の報告が多く、bupropionでは少なかった。
- ・抗うつ薬治療に対する全体的な満足度は、自殺傾向、過敏性、感情鈍麻、認知機能障害、禁断症状などの有害事象との逆相関が認められた。
- ・交絡因子で調整した後、セロトニン作動性薬を使用した患者では、非セロトニン作動性薬と比較し、感情鈍麻のみ報告頻度が高かった。

著者らは「抗うつ薬は薬剤間に違いがあることから、選択する際には、治療中の患者の主観的な経験を考慮すべきであることが示唆された。感情鈍麻を引き起こす可能性の低い薬剤である非セロトニン作動性薬の選択は、患者の満足度の向上につながる可能性がある」としている。

(鷹野 敦夫)

原著論文はこちら

[Camino S, et al. Psychol Med. 2022 Mar 29. \[Epub ahead of print\]](#)

掲載内容はケアネットの見解を述べるものではありません。(すべての写真・図表等の無断転載を禁じます。)

関連記事



抗うつ薬の漸減・中止に関する診療ガイドラインの推奨～システムティックレビュー

医療一般 (2022/04/04)

SSRIの副作用プロファイル～自然主義的横断研究

医療一般 (2021/10/18)